



TITLE:

研究運営委員会報告

AUTHOR(S):

CITATION:

研究運営委員会報告. 物性研究 1967, 8(1): 108-110

ISSUE DATE:

1967-04-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/86016>

RIGHT:

資料 1

研究運営委員会報告

2月18日，於：基研コロキウム室

議長 湯川秀樹

出席者 小谷正雄、坂田昌一、永宮健夫、松原武生、町田茂、碓井恒丸、
高木修二、田中一、小林稔、井上健、小川修三、片山泰久、
松田博嗣、（牧二郎）

欠席者 武谷三男、久保亮五

1 研究部員会議の報告と承認

報告が行われ、それぞれの議題に対して若干の補足意見が出された後承認された。（研究部員会議（2月16、17日）報告参照）

2 素粒子論関係教授の選考

候補者を推薦し、所長に交渉を一任した。

3 素粒子論関係助手の選考

北門新作氏（名大、大学院 D.3）を推薦した。

4 湯川奨学生の選考

益川敏英（名大、大学院 D.3） 研究場所は名大

謝世哲（東工大 ヲ ヲ） ヲ 東工大

倉田泰幸（北大、 ヲ ヲ） ヲ 基研

の三氏を選考した。

5 アトム型研究員選考（研究場所は基研）

曾我見郁夫氏（京大、大学院 D.3） 1年

中川 公子氏（ナポリ大） 6ヶ月（後半）

藤原 出氏（大阪府大、教授） 3ヶ月（3月～5月）

大野 公男氏（北大、理 ヲ ） 1ヶ月（5月頃）

松本 賢一氏（金沢大、助教授） 1ヶ月（後期）

岩崎 洋一氏（東大、大学院 D.2） 1ヶ月（4～5月）

宮田 隆氏（早大、大学院 D.2）3ヶ月（4～6月）

6 42年度併任教授

照会の上、本年度と同じメンバーでお願いすることになった。

7 運営委員の改選について

現運営委員の任期は42年7月31日迄である。故に次期委員の任期は42年8月1日から44年7月31日迄。5月末日迄に選挙を行う。

素粒子論関係は核特委、物性関係は物性小委にお願いする。

学外は8名（素粒子論関係5名、物性関係3名）選出する。

学内は学外の結果をみて相談する。

8 共同利用研のあり方について

（湯川）2月11日に学術会議主催のシンポジウム（共同利用研のあり方について）において、各方面からの出席があつたが、意見は物理関係の人が考えたことと非常に近いと思われた。主に議論された問題は次のようなことである。

- 共同利用研究所は大学併置にしたらどうか。
- 共同利用研といつても様々な規模のものがあつて、0から ∞ にスペクトル状に存在する。
- 性格もちがうのでそれぞれの特徴を生かすよう考えるべきである。境界領域に関しても十分な配慮が必要である。巨大設備をもつ研究所だけが作る価値があると考えはいけない。
- 大学院の問題に関しては、現状の制度ではむしろ学生の身分でなく、fellow shipのようなものにして、力を入れるべきではないか。
- 「国立科学院」を作るという構想がある。
- 任期制は原則的にはよいことだという意見が多い。
- 素研が他の（今迄あるもの又は出来るもの）共同利用研にどのような影響を及ぼすか。

これらの問題を巡つて次のような意見が出された。

- 最近「大学の外で」と考えている研究者が沢山いる。
- 基礎的なもの、純粋なものが最初に必要であつて、次に有用なものを作

資料 1

るように考えるべきだ。

- 素研は国立直轄研となると、大学とは待遇がちがうので、それが大学との交流を妨げる原因になるのではないか。又専任、専従の問題では、大きな研究所はある程度の固定所員（専任）を持つていなくてはいけないという問題がある。

9 43年度概算要求について

43年度概算要求について、当研究所にては、下記の要求事項について特に強調する。

- 研究部門の増設…統計物理研究部門

- 文教施設…共同利用研究員宿舍新営

- その他

- ×特別事業費

- 外国人招聘費については、渡航費を含めて要求する。

- 国際会議出席渡航費

- ×事務機構の整備

- 共同利用事務室の拡充

- ×雑件

- 電子計算機計算料 etc.

10 素粒子論関係助教授の後任について

- 公募する（1名）

- 5月末日〆切

- 分野「素粒子論、原子核理論、宇宙線理論及びその周辺」

以上（文責 寒竹康江）